



湖西市

住吉西地区防災計画

令和 7 年 1 月策定

「命を守る津波避難訓練の継続」

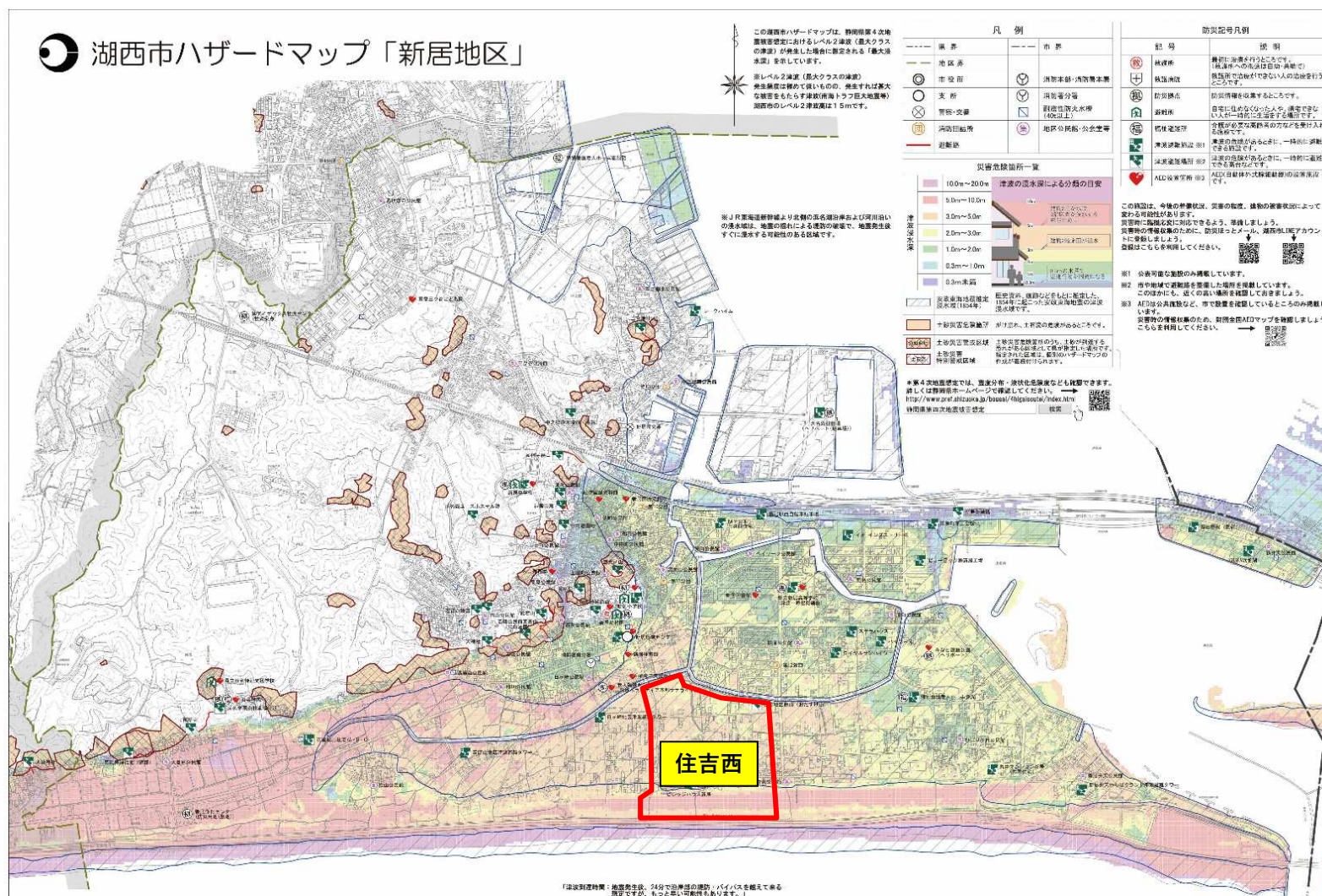
- 目 次 -

1. 計画の対象地区の範囲・計画の策定主体	1
2. 基本的な考え方	2
(1) 基本方針（目的）	
(2) 活動目標	
(3) 活動計画（年間）	
3. 地区の特性	3
(1) 自然特性	
(2) 社会特性	
(3) 災害特性	
①地震（a. 震度分布、b. 液状化、c. 津波被害）	
②土砂災害	
③水害（河川氾濫）	
(4) 防災マップ	
4. 防災活動の内容	8
(1) 防災活動の体制	
(2) 平常時の活動	
(3) 発災直前の活動	
(4) 災害時の活動	
(5) 復旧・復興期の活動	
(6) 市、消防団、各種地域団体等との連携	
5. 実践と検証	10
(1) 防災訓練の実施・検証	
(2) 防災意識の普及啓発	
(3) 計画の見直し	

1. 計画の対象地区の範囲・計画の作成主体

■計画の対象地区の範囲：住吉西町内会 ※世帯数：303 世帯、人口：637 人（令和 6 年 11 月末現在）

■計画の作成主体：住吉西自主防災会



2. 基本的な考え方

(1) 基本方針（目的）

- ・ 命を守る津波避難訓練の継続

(2) 活動目標

- ・ 津波到達時間までに確実な避難ができるように訓練を継続して実施する
- ・ 若い世代が訓練に参加してもらえるような工夫を意識的に実施する
- ・ 各々が避難経路のリスクを認識し、複数の経路を想定しておく
- ・ 防災活動をきっかけに、地域住民の防災意識の醸成と共助の関係性を広げる
- ・ 要配慮者（高齢者や障がい者等）も含め、個々人に合った避難方法を考える

(3) 活動計画（年間）

- ・ 年3回防災訓練を実施する
 - 総合防災訓練：9月1日（防災の日）
【実施内容】炊き出し・資機材操作訓練 など
 - 地域防災訓練：12月第1日曜日（静岡県・地域防災の日）
【実施内容】津波避難訓練、炊き出し など
 - 夜間防災訓練：3月11日（東日本大震災発生日）
【実施内容】津波避難訓練 など

3. 地区の特性

(1) 自然特性

- ・ 高低差の少ない平地、砂地盤で液状化危険度が高く、地震時は道路に段差が発生したり、電柱や街灯が傾き、倒壊したりする等、道路が通行しにくい状況が発生する可能性がある。

(2) 社会特性

- ・ 高齢化が進み若い世代の流入がなく、空き家が多くて新築の家が建たない。アパートは外国人の比率が高い。

(3) 災害特性

- ・ 詳細は「湖西市津波防災地域づくり推進計画」で確認
※市ウェブサイト公開

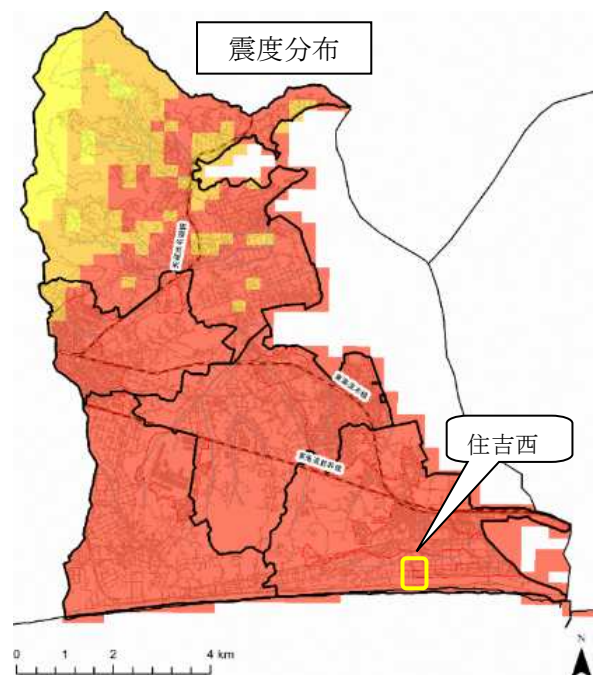
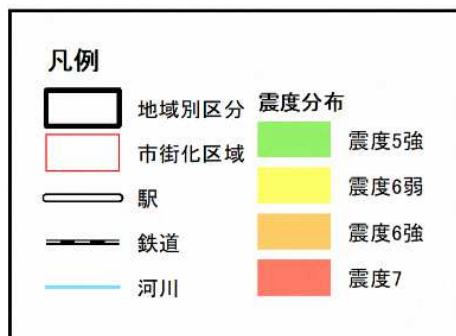


◀詳しく
はこちら

①地震

a. 震度分布

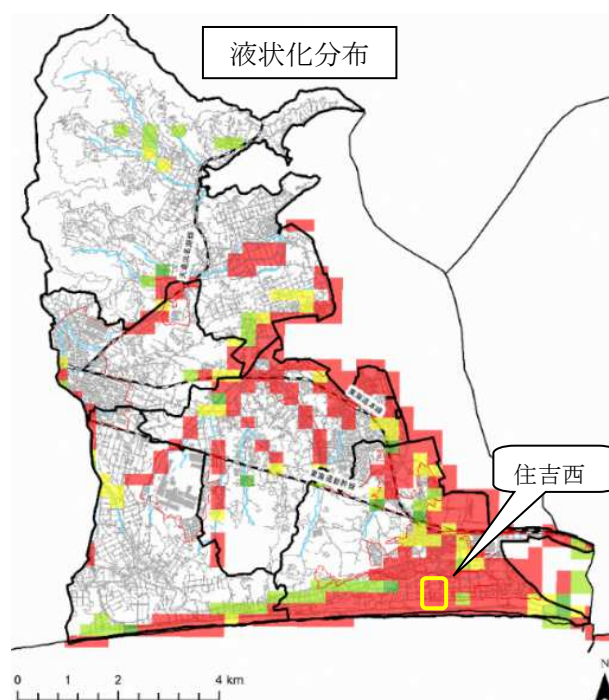
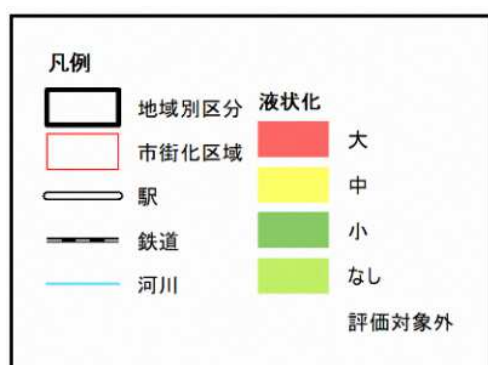
本市では広い範囲で震度7の揺れが想定される



出典：国土数値情報、市データ

b. 液状化

地区の液状化の可能性は「大」



出典：国土数値情報、市データ

c. 津波被害

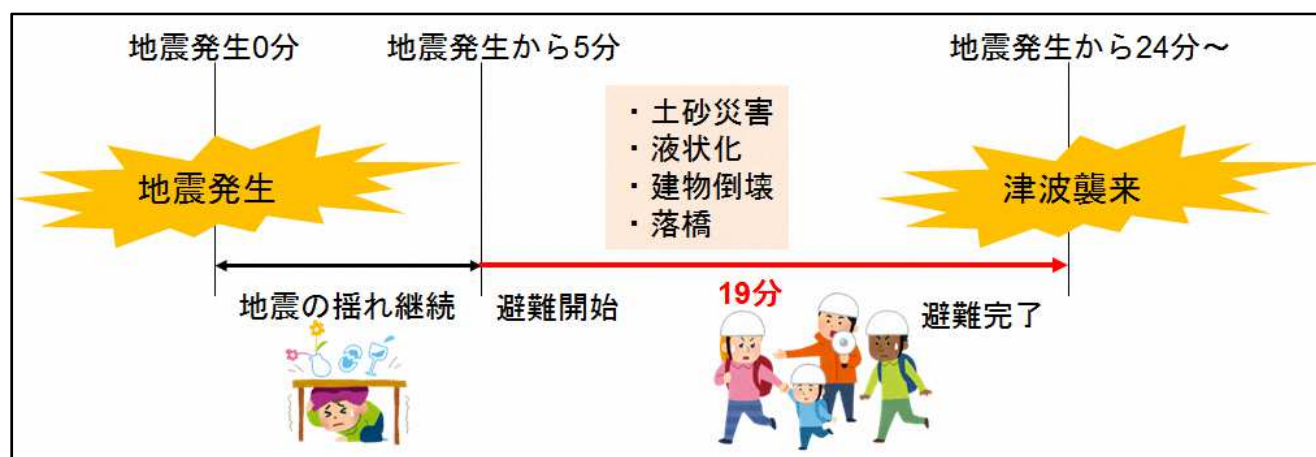
■ 南海トラフ巨大地震による津波被害①（湖西市津波防災地域づくり推進計画から抜粋）

駿河湾から遠州灘にかけて、沿岸地域で地震による隆起で津波が発生し、湖西の海岸に短い時間で津波が到達します。津波到達時間として、地震発生後 24 分で沿岸部の既存堤防・バイパスを越えると想定され、地震発生から 5 分ほど揺れが継続するため、19 分間で避難を完了する必要があります。

本市沿岸の津波の到達最短時間（上段：沿岸津波高、下段：到達時間）

+ 50 cm	+ 1m	+ 3m	+ 5m	+ 10m (堤防越流)	+ 15m (最大津波)
7 分	9 分	13 分	23 分	24 分	28 分

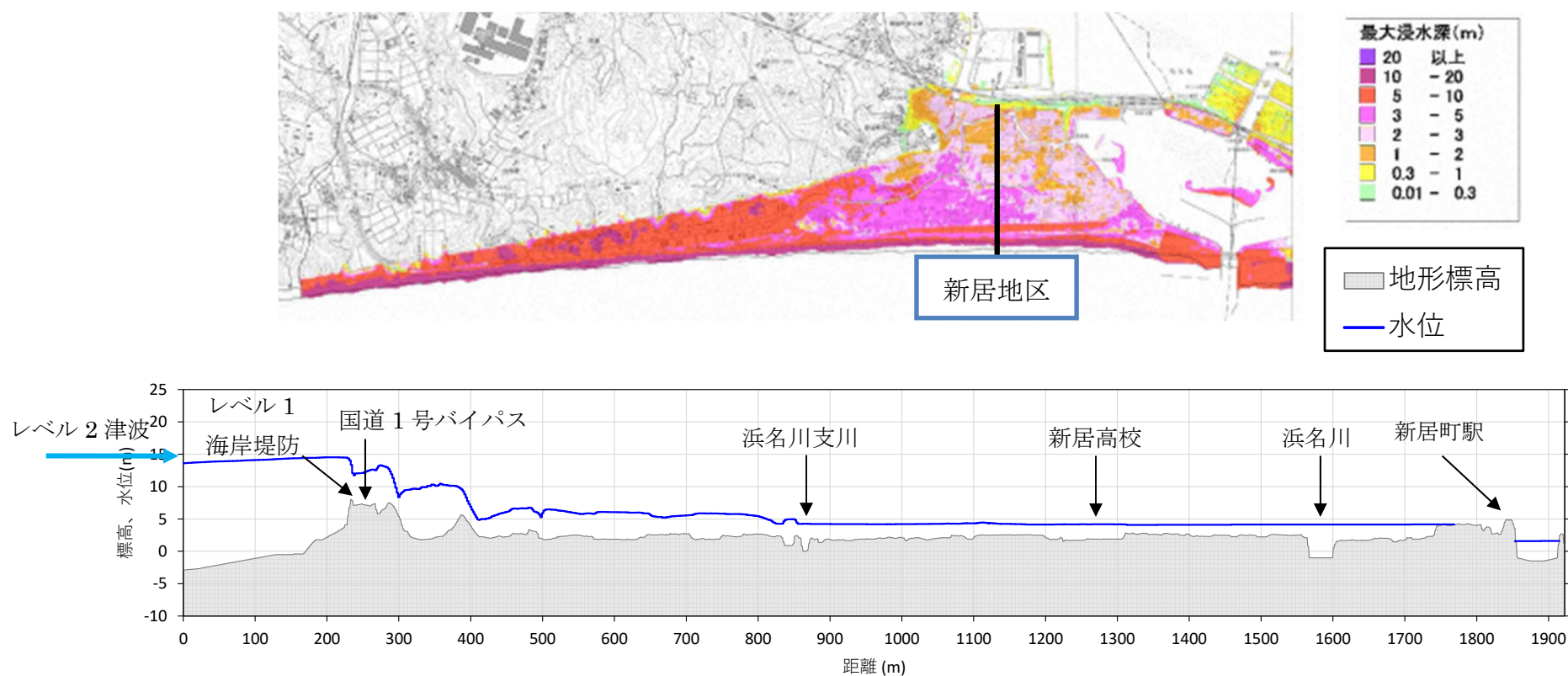
出典：静岡県第 4 次地震被害想定（第一次報告）（平成 25 年 6 月）



■ 南海トラフ巨大地震による津波被害②（湖西市津波防災地域づくり推進計画から抜粋）

静岡県第4次地震被害想定津波シミュレーション結果では、本市におけるレベル1津波は最大7m、レベル2津波は最大15mと想定されています。

遠州灘からレベル1海岸堤防を乗り越えて市街地側に進入したレベル2津波は、新居地区においては標高の低い土地に海水が滞留し長期間浸水が継続するなどの特徴があります



レベル2津波による湖西市沿岸域（新居地区）の浸水状況断面図

②土砂災害

地区内に土砂災害警戒区域はない



出典：国土数値情報、市データ

③水害（河川氾濫）

準用河川である「浜名川支川」が地区の北部に流れている

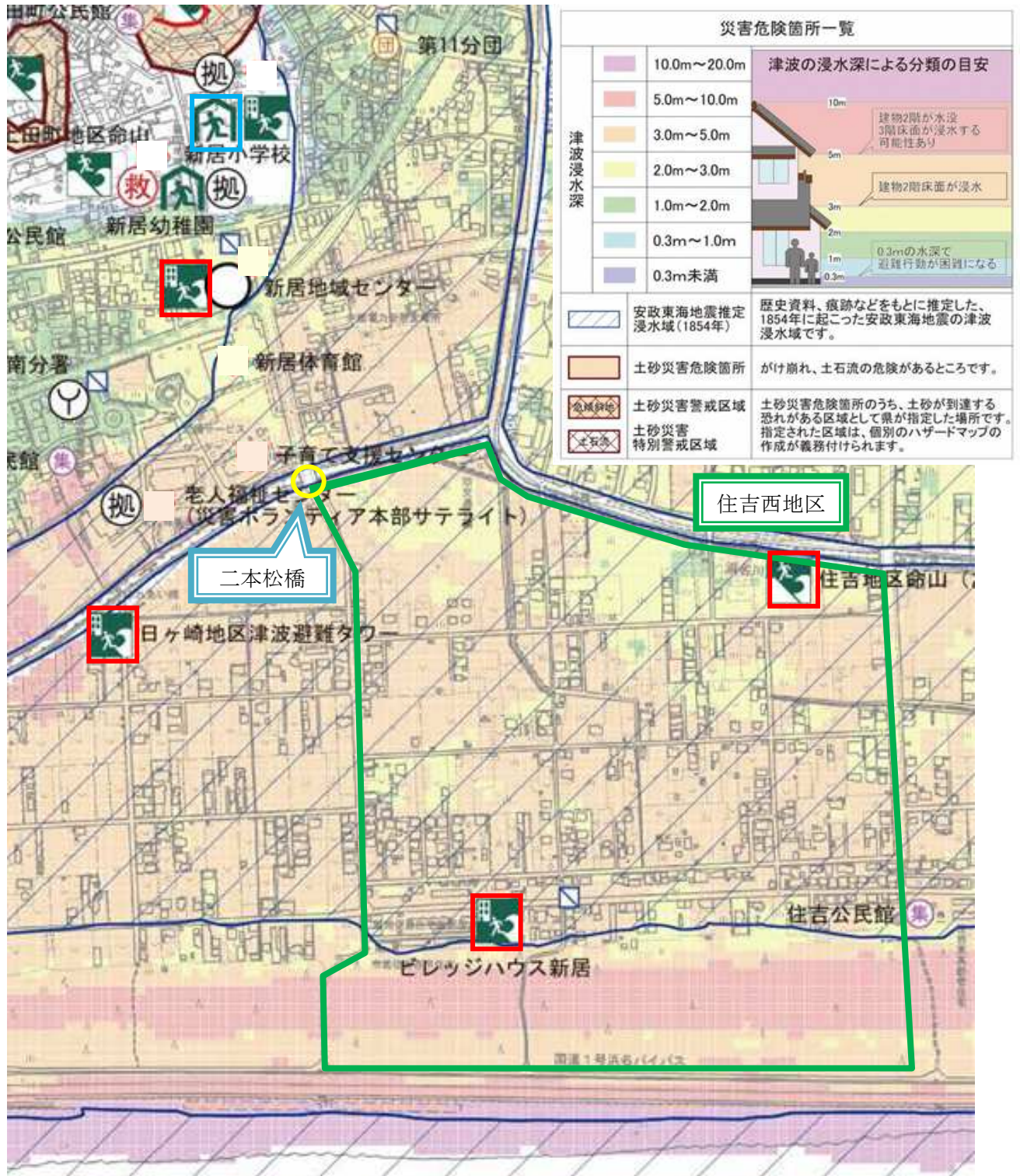


出典：湖西市地域防災計画

(4) 防災マップ

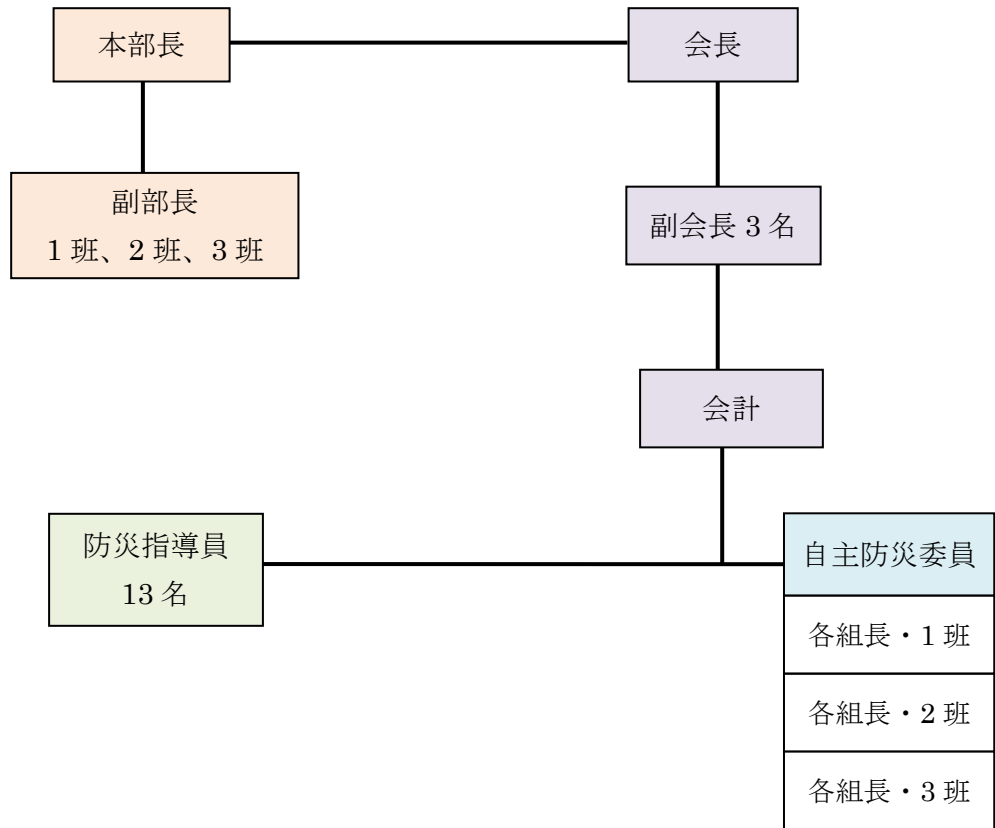
- ・指定避難所：新居小学校
- ・津波避難施設：住吉地区命山、ビレッジハウス

日ヶ崎地区津波避難タワー、新居地域センター



4. 防災活動の内容

(1) 防災活動の体制（令和6年11月末現在）



(2) 平常時の活動

<自助に関する活動>

- ・家具固定など自宅内の危険個所の確認と改善
- ・食料・飲料水、簡易トイレ等の日用品の備蓄※1週間分が望ましい
- ・非常持ち出し品の用意
- ・津波避難場所・指定避難所の確認
- ・津波避難場所までの複数の避難経路を確認
- ・家族同士の安否確認方法の決定・共有
- ・情報収集と通信手段確保 など

<共助に関する活動>

- ・防災のための活動体制作り
- ・要配慮者に関する情報収集と管理
- ・地域における人材育成
- ・地区内への防災情報の発信
- ・津波避難訓練の実施
- ・備蓄品及び防災倉庫の整備・管理
- ・危険箇所の点検、指定避難所・避難路等の確認 など

(3) 発災直前の活動（水害時のみ）

- ・災害種別や警報、避難情報の度合によってどのような動きをするべきか、事前に確認・想定しておく

(4) 災害時の活動

<住民の避難行動の流れ>

- ・強い揺れが収まったらすぐに、または強い揺れを感じなくても「津波注意報」や「津波警報」、「大津波警報」が発表されたら避難
 - 自分自身の安全確保
 - ・同報無線、テレビ、スマホ、ラジオ等で正確な災害情報を入手
 - 近隣の安全活動
 - ・可能な範囲で隣家への声掛け（特に避難行動要支援者）
 - 津波避難場所に避難
 - ・必要な物（非常持ち出し袋）を持って津波避難施設に避難
 - ※避難に支障が少なそうな避難経路をあらかじめ複数考えておく
 - 安否確認
 - ・家族、地域住民の安否確認

(5) 復旧・復興期の活動

- ・避難所運営を他地区と共に協力して行う
- ・被災状況によっては、長期に渡る避難所生活が強いられる場合がある。炊き出しや支援物資の運搬など、地域で協力して復旧・復興に向けた活動を行う

(6) 市、消防団、各種地域団体等との連携

- ・市の関係部署、消防団、各種地域団体等との連携・協力は重要になるため、事前の関係構築に努める
- ・地区内で、協力や活躍の期待される事業者がいないか確認する

5. 実践と検証

(1) 防災訓練の実施・検証

- ・現状の避難訓練等を継続的に実施し、今後、本計画の内容を実行するためにどのような改善や新たな取組が必要となるか検討する。

(2) 防災意識の普及啓発

- ・防災を考える上で、自助としての個人の備えが重要となるため、地域住民の防災意識の普及啓発に努め、地域でできることを話し合う。

(3) 計画の見直し

- ・計画は作成するだけでなく、定期的に見直すことが重要。年に1回を目安に計画の内容を見直す。